

姫路市立水族館

汽車窓式水槽での成功

古い水族館に入ると、ああこれこそ水族館！と懐かしくホッと落ち着く。1966年に開館した姫路市立水族館も、近ごろではレトロな水族館だが、展示の内容は豊富でわかりやすい。何が展示してあって何を見ればいいのか、展示意図がはっきりとわかってワクワクするのだ。

古いタイプの水族館に四角い水槽が並んでいるのを、汽車窓式水槽というが、いい水族館の汽車窓は、次々に変わる車窓の風景と同じく期待感と驚きと満足を与えてくれるものなのだ。

この水族館は、その点では最高にいい水族館。トンは

ネル水槽やラッコなどいなくても、十分に満足させてくれる。さらに入館料がたったの200円！コストパフォーマンスは日本一だ。近くにある、毎月通いたい水族館である。

身近な生物が新鮮

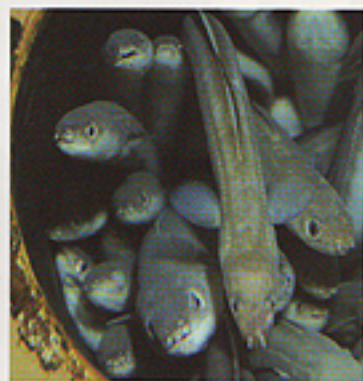
姫路市立水族館の大きな特徴は、展示生物の9割が日本の生物であることだ。ふだん名前を耳にしたり、釣ったり食べたりするような生物が多い。カエルや水生昆虫もたくさん含まれる。外国産のヘンなカエルではなく、兵庫県内にあるカエルが中心だ。シートンもフアーブルも最初の興味は身近な生物から始まった。そして身近な生物たちを

見るのは、実はとても楽しいことだと、この水族館は教えてくれる。もう一つの特徴はカメの展示で、特にアカウミガメに力を入れている。赤ちゃんガメから2〜4年を分けた展示と、大きな大人のウミガメまで幅広い。

展示への工夫と努力も大きな特徴だ。透明な貝殻を背負ったヤドカリや、スタッフ手づくりの解説など、とてもわかりやすい。期間限定の特集展示もたいへん多く、次々に新しいテーマによる展示換えが行われている。



↑ふんぞりカエルなニホンヒキガエル。雄が4本、雌が6本のガマか！いやヒキガエルの前足の強は4本が普通だ



↑アナゴは穴子。穴に入るのが好き

PICK UP

工夫の展示



ヤドカリに透明プラスチック製の手作り貝殻を与えてある。だれもが知りたかった貝殻の内側の秘密。こんな工夫がたくさんある。



↑アオヤガラ。細長い体がひとさき目を引く



男の子とお父さんたちは水生昆虫が好きだ

↑アオヤガラは、細長い体がひとさき目を引く

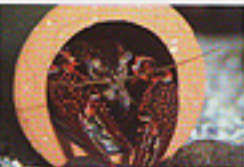


↑タガメ

↑タガメは、3年経たないと脱皮しない



↑大きなゲンゴロウ



↑アメリカザリガニ



TEL 0792-97-0321
住所 兵庫県姫路市西葦末 440 (手柄山中央公園内)
URL <http://www.city.himeji.hyogo.jp/aqua/>
開館時間 9時～17時 (入館は開館30分前まで)
休館日 12月29日～1月1日
入館料 大人200円、小人(5歳～中学生)30円
交通 山陽電車手柄山駅から徒歩10分 (またはJR姫路駅から3番バス、文化センター前下車徒歩5分)。車=姫路バイパス中地ICから手柄山第1立体駐車場まで約5分
駐車場 手柄山第1立体駐車場を利用



↑アカウミガメはとても多い。そういえば兵庫県の日本海側には漁島太郎館がある



↑アカウミガメは、赤ちゃんから大人まで



↑屋外プールが特徴的。ウミガメやペンギンのほか、近海の大型魚や、コイやフナ、アオウオなど、日本の淡水の大型魚が飼育されている